

まえがき

この規格は、日本ロック工業会 (JLMA=The Japan Lock Manufacturers' Association) が制定した。

日本ロック工業会は、「錠全般の製造及びこれに関連する事業を営む法人」によって組織され、日本ロック工業会の事業の総合的な進歩発展を図り、もってわが国の繁栄と国民生活向上、そして安全社会の構築に貢献することを目的とする。

序文

この規格は、日本に在る「錠全般の製造及びこれに関連する事業を営む法人」が加盟する日本ロック工業会 (JLMA=The Japan Lock Manufacturers' Association) が制定した錠機能を統一記号化した規定である。

1.適用範囲

この規格は、建築金物の開口部の戸に用いる錠の機能を通行区分と施錠方法によって表示する錠機能記号に適用する。

2.引用規格

つぎに掲げる規格は、この規格が引用されることによって、この規格の一部を構成する。これらの規格の引用は、その最新版を適用する。

JIS A 1541-1 建築金物一錠、第1部：試験方法

JLMA A2003 錠用語

JIS A 1541-2 建築金物一錠、第2部：実用性能項目に対するグレードおよび表示方法

3.定義

この規格に用いる主な用語の定義は、JLMA A2003 錠用語による。

4.機能記号の構成

機能記号は、次の項目で構成する。

- 1 通行区分
表-1、表-2
- 2 施錠方法
表-3
- 3 錠の形状
表-4
- 4 記号の表記方法
表-5、表-6、表-7、表-8
- 5 錠機能の種類
表-9、表-10

5.通行区分

通行区分とは、錠の施錠・解錠状態で扉の両側からどのような操作で開扉できるかを示すものである。操作方法 (内容) を記号化し、その記号の組合せにより可能な通行区分をつくる。操作を示す記号は、表-1に示す。

表-1 操作を示す記号

記号	操作の内容
◎	キーなしで、ラッチ及びデッドボルトを操作し開扉できる
×	開扉する手段がない
N	錠の機能をしていない状態のもの
E	非常開で解錠し、その後開扉できる
K	キーで解錠し、その後開扉できる
△	扉の内外の解錠操作の後、開扉できる

通行区分を、24通りに分類し、表-2に示す。

表-2 通行区分による分類

通行区分	施錠状態		解錠状態	用途例
	1	2		
01			◎ ◎	通路
02	◎	×	N	多目的・ビル用トイレ
03	◎	E	N	病院用トイレ
04	◎	K	N	ビル出入口
05	K	K	N	公共出入口
06	×	K	N	点検口・物置
07	◎	×		一方通行扉
08	◎	×	◎ ◎	間仕切
09	◎	E	◎ ◎	トイレ・浴室
10	◎	K		ホテル客室
11	◎	K	◎ ◎	事務所・学校教室・玄関
12	K	K	◎ K	銀行通用口
13	K	K	◎ K ◎ ◎	銀行通用口に準ずる
14	×	K	◎ K	機械室
15	×	K	◎ K ◎ ◎	多目的 (機械室に準ずる)
16	K	K		監獄通路
17	K	K	◎ ◎	玄関・事務所出入口
18	×	K		監禁扉
19	×	K	◎ ◎	倉庫・テラス
20	×	K	×	一方通行扉 (施錠が必要な場合)
21	△	△	◎ ◎	コネクティング扉
22	K	K	◎K or K ◎ ◎ ◎	コネクティング扉
23	◎	×	◎ K ◎ ◎ ◎	寮玄関
24	◎	K	◎◎ or N	教室・病院

日本ロック工業会規格

6. 施錠方法

施錠方法とは、施錠の主体となる方法。施錠方法を記号(番号)にする。施錠方法を6通りに分類し、表-3に示す。

表-3 施錠方法による分類

0	施錠不可
1	キー及びサムターン等で施錠
2	自動施錠可能
3	常時自動施錠
4	自動施錠可能+デッドボルト
5	常時自動施錠+デッドボルト

7. 錠の形状

錠の形状を、取付けの形式により区別し記号にする。錠の形状を9通りに分類し、表-4に示す。

表-4 錠の形状

箱錠	インテグラル錠	円筒錠	チューブラ錠	面付錠
C	I	B	T	R
引戸錠	引違戸錠	ガラス扉錠	面付引戸錠	グレモン錠
H	S	G	M	A

注釈)

引戸錠………引戸の戸先部分に取付ける錠

引違戸錠………引戸召し合わせ部分に取付ける錠

ガラス扉錠……強化ガラス扉の上下のフレームに取付ける錠

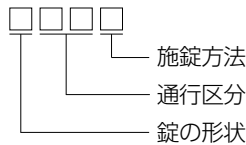
グレモン錠……ハンドル操作により、最低2ヶ所以上のロッド(又はデッドボルト)をエアタイトの目的で出し入れする錠

日本
ロック
工業会
規格

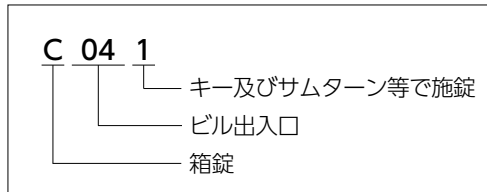
8. 記号の表記方法

錠の機能と通行区分を指示する場合は、以下の表記をする。表-2、表-3、表-4を用いて次のように表す。

1) 機能記号の基本型



記入例



2) システム端末機の機能記号

(1) 電気錠……Eで表す。

□ □ □ □ - E ①②

①は電気的機能を示す。

表-5 ①部に示す記号

1	通電時施錠型
2	通電時解錠型
3	瞬時通電施錠型
4	瞬時通電解錠型
5	モーター式施錠型

表-6 ②部に示す記号

1	扉の開閉信号と錠の施錠信号
2	錠の施錠信号
3	閉扉かつ施錠信号

3) 非常錠の機能記号

(1) 非常錠……Pで表す。

□ □ □ □ - P ①

表-8 ①部に示す記号

1	キーを用いず、屋内から開放動作で解錠し、かつ開放できる非常専用錠 ※1
2	キーを用いず、一の動作で容易に解錠できる非常専用錠 ※2
3	キーを用いず、一の動作で容易に解錠できる錠 ※3

※1 ワンタッチタイプ

※2 非常解錠装置付

※3 ノブやサムターンの樹脂カバー付

(2) 電気ストライク……ESKで表す。

□ □ □ □ - ESK ①②③

①、②は電気錠と同じ。③は、組合せ出来る錠の種類を示す。

表-7 ③部に示す記号

1	デッドロックングラッチのみを有する錠
2	デッドボルトのみを有する錠
3	デッドロックングラッチとデッドボルトを有する錠
4	ラッチとデッドボルトを有する錠

(3) 枠付電気錠……ESTで表す。

□ □ □ □ - EST ①②③

①、②は電気錠と同じ。

9.錠機能の種類

通行区分と施錠方法の組合せで、次のような錠機能の種類が可能になる。錠機能の種類を表-9、表-10に○印で示す。

表-9 開き扉用錠

		施錠方法					
		0	1	2	3	4	5
通行区分	01	○	—	—	—	—	—
	02	—	○	○	—	—	—
	03	—	○	—	—	—	—
	04	—	○	○	—	—	—
	05	—	○	○	—	—	—
	06	—	○	○	—	—	—
	07	—	—	—	○	—	○
	08	—	○	○	—	○	—
	09	—	○	○	—	—	—
	10	—	—	—	○	—	○
	11	—	○	○	—	○	—
	12	—	—	—	○	—	○
	13	—	—	—	—	○	—
	14	—	—	—	—	—	○
	15	—	—	—	—	○	—
	16	—	—	—	○	—	○
	17	—	○	○	—	—	—
	18	—	—	—	○	—	○
	19	—	○	○	—	—	—
	20	—	○	—	○	—	○
	21	—	○	—	—	—	—
	22	—	○	—	—	—	—
	23	—	—	—	—	○	—
	24	—	○	○	—	—	—

表-10 引戸・引違戸用錠

		施錠方法					
		0	1	2	3	4	5
通行区分	01	○	—	—	—	—	—
	02	—	●	—	—	—	—
	03	—	●	—	—	—	—
	04	—	●	—	—	○	—
	05	—	●	—	—	—	—
	06	—	●	—	—	—	—
	07	—	—	—	○	—	—
	08	—	○	○	—	—	—
	09	—	○	○	—	—	—
	10	—	—	—	○	—	—
	11	—	○	○	—	—	—
	16	—	—	—	○	—	—
	17	—	○	—	—	—	—
	18	—	—	—	○	—	—
	19	—	○	—	—	—	—
	20	—	○	—	○	—	—

引違戸錠は●のみ

解説

1.表示図の解説

錠を構成する各 부품の機能を、次のシンボルマークで表示する。

表-11

表示図	名称	説明
	シリンダー	棒鍵及び引戸錠の押込み回転操作、ネジ締りタイプ可変シリンダー等シリンダー機構のもの全てを含む
	シリンダー	ラッチボルトを下げられるシリンダー
	シリンダー	ラッチボルトをホールドするシリンダー
	シリンダー	解錠のみのシリンダーで、キーを抜いても施錠状態にならない
	シリンダー	シャットアウト装置付シリンダー
	サムターン	引戸錠のスライドツマミ、プッシュボタンを含む
	サムターン	ラッチボルトを下げられるサムターン
	非常解装置	
	表示	施錠表示 (在室表示を含む)

表示図	名称	説明
	ハンドル	ノブ、レバーハンドル、サムラッチハンドル、ケースハンドル等含む
	ハンドル	常時固定または、空転するハンドル
	ハンドル	シリンダー付ハンドル
	ハンドル	押ボタン付ハンドル
	ハンドル	ユニバーサルボタン付ハンドル
	ハンドル	サムターン付ハンドル
	ハンドル	施錠操作する側 (□の開いた側) が固定するハンドル
	ハンドル	相手側の施錠操作 (□の開いた側) で固定するハンドル
	ハンドル	内・外いずれかの側からの施錠操作でも、固定するハンドル
	ハンドル	□の開いた方にあるストップボタンまたは専用工具で固定するハンドル

日本ロック工業会規格

表-11 (P917 続き)

表示図	名称	説明
	ハンドル	扉が閉まると固定するハンドル
	ハンドル	ラッチボルトとデッドボルトを同時に下げられるハンドル
	ハンドル	デッドボルトを出し入れできるハンドル
	ラッチボルト	
	ラッチボルト	閉扉動作によるハンドルの施錠状態が解除(閉め出し防止装置付)されるラッチボルト
	デッドロックングラッチ	
	デッドロックングラッチ	係止可能なデッドロックングラッチ
	デッドロックングラッチ	キーまたはサムターン操作した時、閉扉中一時的に係止されるラッチボルト
	フックボルト	引戸用、鎌

表示図	名称	説明
	フックボルト	引違戸、引寄せる鎌も含む
	フックラッチ	引戸用、常時フックラッチは動く
	フックラッチ	引戸用、施錠時フックラッチは固定
	デッドロックングラッチ	引戸用、自動フック(トリガー付)
	クレセント式フックボルト	引違戸
	栓	引違戸(栓錠、ネジ締め錠を含む)
	デッドボルト	
	スプリットデッドボルト	内・外より独立して操作されるデッドボルト
	ストップボタン	フロントに付いている施錠装置。ノブの中についているタイプもある

2.機能記号の略図及び機能説明

部品毎の表示図の組合せで完全組立品の機能を知ることができる。下記に一例を示す。表-11を参照。

箱錠

区分	略 図		機能記号	閉扉 自動施錠	施錠操作		解錠操作	
	室内	室外			室内側	室外側	室内側	室外側
13 KK ○K ◎◎			C134	可能	シリンダー ストップ ボタン	シリンダー ストップ ボタン	シリンダー ストップ ボタン	シリンダー ストップ ボタン

機能説明

この錠は、両面シリンダー(ラッチ操作ができる)/デッドボルト/ラッチボルト(デッドロックングラッチ)/両面ハンドル(下にあるストップボタンで片側が固定される)付の箱錠である。
解錠時は、室内外両側のハンドルでラッチボルトを操作すれば開扉できる。ストップボタンで施錠機構を操作すると、室外側のハンドルは固定し、ハンドルで開扉することができない。この時、閉扉すると自動施錠が可能になる。両側のシリンダーでラッチボルト・デッドボルトを操作して開扉することができる。

引戸

区分	略 図		機能記号	閉扉 自動施錠	施錠操作		解錠操作	
	室内	室外			室内側	室外側	室内側	室外側
11 ○K ↓ ◎◎			H112	可能	サムターン	シリンダー	サムターン	シリンダー

機能説明

この錠は、シリンダー・サムターン(仮締め機能付)/両面ハンドル(室内外いずれからの操作でも固定されるハンドル)/フックボルト付の引戸錠(鎌錠)である。
解錠時は、両側のハンドルでフックラッチを操作し開扉できる。シリンダー・サムターンで施錠機構を操作すると、両側のハンドルは固定し、ハンドルで開扉できない。閉扉すると自動施錠可能になる。

引違戸錠

区分	略 図		機能記号	閉扉 自動施錠	施錠操作		解錠操作	
	室内	室外			室内側	室外側	室内側	室外側
04 ○K ↓ N			S041		サムターン	シリンダー	サムターン	シリンダー

機能説明

この錠は、シリンダー・サムターン/フックボルト付の引違戸錠である。
解錠時は、自由に開扉できる。施錠機構シリンダー/サムターン操作するとフックボルトにより施錠する。